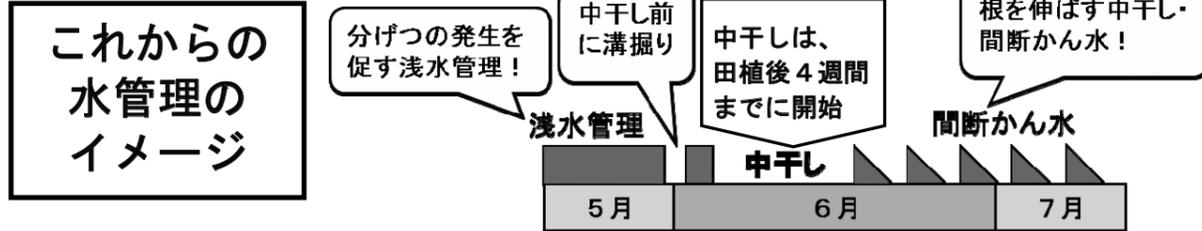


稲作管理特報

米の品質を高めるためには、稲の生育に合わせた水管理が重要です。まずは、初期莖数を確保するために浅水管理を確実にを行い、分けつの発生を促しましょう。

次に、田植え後4週間までに中干しを開始し、夏の高温に耐えうるしっかりとした「根づくり」に取り組みましょう。



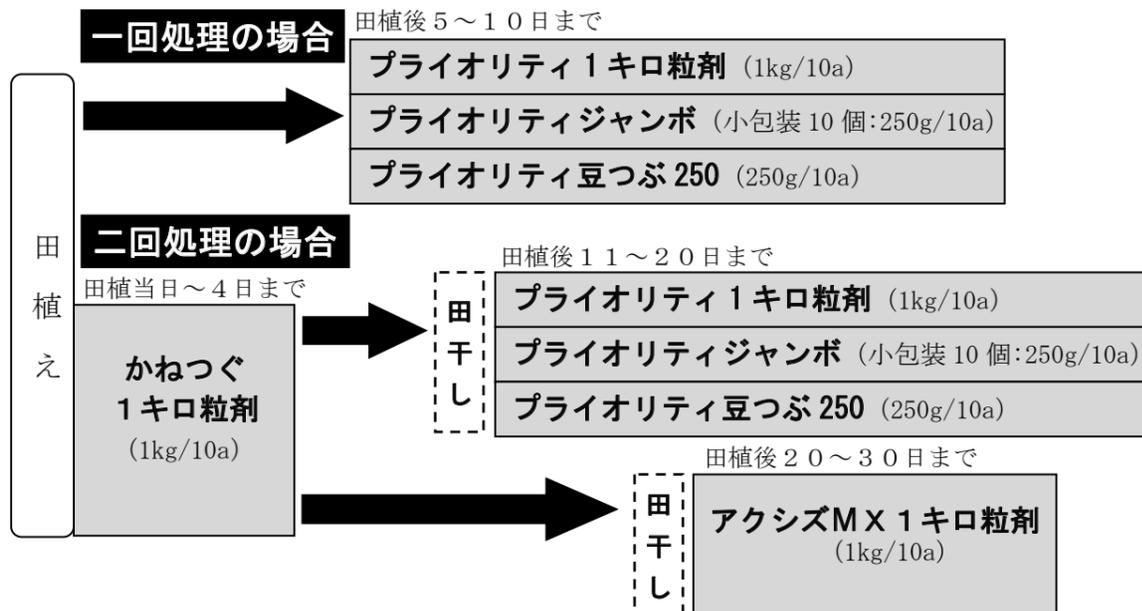
これからの水管理のイメージ

1 浅水管理 ～初期莖数を確保する～

- ・中干しまでは、浅水管理で水温を高め、分けつの発生を促しましょう。
- ・アオモの発生、ブクブクとわいているほ場や葉色の淡いほ場は、軽い田干しを行いましょう。
- ・低温や強風の時は、やや深水とし保温に努めましょう。ただし、天候が回復した際は速やかに浅水管理に切り替えましょう。

2 除草剤散布

- ・除草剤は、晴れ間を見て遅れずに散布しましょう。
- ・散布前に5cm程度入水し、5日間は止め水のうえ、湛水状態を保つようにしてください。
- ・水持ちの悪いほ場は、ゆっくりと入水し、田面の露出を避けてください。
- ・散布後7日間は落水やかけ流しは行わないでください。
- ・2回処理の場合、除草剤散布直前に軽い田干しを1～2日程度行い、藻への効果を高めるとともに、有害なガスの発生を抑制してください。



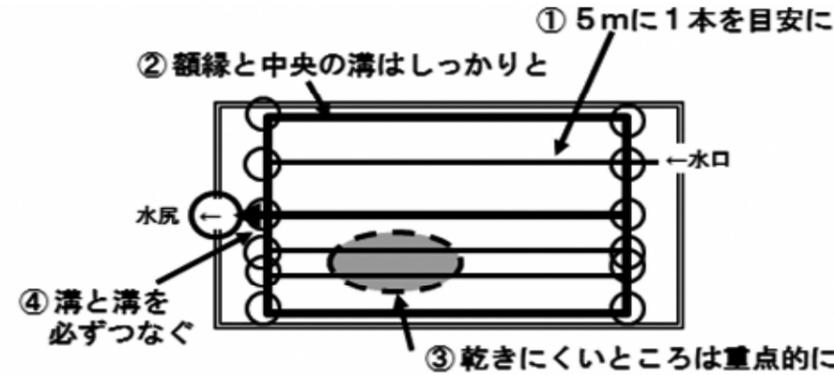
「溝掘り・中干し」は適期を逃さずに行い、しっかり根を伸ばそう！

3 溝掘り ～中干しの効果をも高める～

・溝掘りは、中干し前に必ず実施しましょう。

●溝掘りのポイント

- ・軽く田干しを行い、泥を落ち着かせてから溝を掘る。
- ・溝は、5mに1本を目安に掘り、ほ場の周囲と中央の1本は、特にしっかりと掘る。
- ・溝は、水尻まで確実に連結する。



●溝掘りの効果

- ① ほ場のすみずみまで均一に干すことができる。
- ② 間断かん水の際など、水の出し入れがスムーズに行える。

4 中干し ～根の量をしっかりと増やす～

・中干しは、田植え後4週間までに開始し、遅れずにしっかりと干しあげましょう。

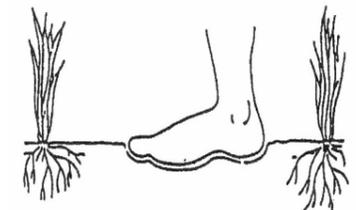
・中干しが遅れると根張りが悪くなり、青米や乳白粒が発生する原因となります。

●中干しのポイント

- ・田面に小さなひび割れが入り、長靴の跡がつく程度まで干しましょう。
- ・表面に水がなくても足が沈むようでは不十分です。

【中干し開始日の目安】

田植日	中干し開始日
5月10日	6月7日頃
5月15日	6月12日頃
5月20日	6月17日頃



【中干し終了頃のほ場の状態】

※莖数が多くなりやすい田や乾きにくい田は、やや強めに干しましょう。

(ただし、長くても連続1週間以内とし、週に1度は入水する。)

※莖数が少なめの田や乾きやすい田は、1度に干しあげないようにしましょう。

(中干し後の「間断かん水」(1日湛水、2～3日落水)により、地固めする。)

★JA みな穂営農情報メールを配信しています。

下のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

主な情報
提供内容

- ・水稲・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理
- ・気象情報と災害防止の対策

